

---

# 大湾区情報 No. 10

グレーターベイエリア情報 発行：2021年4月27日



---

「大湾区情報」では、日系企業の皆様に有用と考えられる最新情報をいくつかピックアップしお届けします。

## 【「横琴一体化地域」により広東省—マカオ間協力関係ますます強固に】



先日、広東省珠海市で横琴一体化地域の重点プロジェクトに関する調印式が行われました。調印されたプロジェクトでは統括会社の誘致やバイオ医薬、先進的倉庫物流などの産業に関わる以下の施設の建設が含まれており、総計画投資額は260億人民元以上となっています。

- ・ 中国鉄建港航局本部化学研究室・人材基地
- ・ 中国電建市政研究院本部ビル
- ・ 中国平安珠海生命科学技术港

- 
- ・炭雲智能デジタルライフ産業園
  - ・横琴達安国際イノベーションバレー産業基地
- (など計 15 プロジェクト)

「締結されたプロジェクトは、横琴の一体化地域における産業指向の現在の方向性と一致している。」横琴新区管理委員会の楊川主任は、横琴は地域の総合的発展を加速させ、マカオの多様な産業の発展のために新しいプラットフォーム、新しいチャンネル、新しいスペースを提供すると述べました。

横琴一体化地域は、主に横琴新区の北部と、馬騮洲水道の北部に位置する約 26 平方キロメートルの新たな発展地域、つまり保税区、洪湾、十字門北区、湾仔を含んでいます。このエリアは珠海市の中心市街地の南部に位置し、東はマカオ、西は金湾や斗門などの西部新都市と海を隔てて隣接しており、東西にまたがり、川と海にアクセスできるというユニークな利点を持っています。今回締結された 15 の重要プロジェクトは、保税区と洪湾区域に集中しています。横琴新区発展改革局の王彦副局长は、「香港・珠海・マカオ大橋の開通後、一体化地域は西海岸で唯一の橋の出口となり、珠江と香港マカオ間の道路と橋の接続を実現させました。鉄道輸送、主要幹線エクスプレス、海上大橋が続々と完成、もしくは急ピッチで進められており、一体化地域と大湾区の主要都市を密接に結びつけています。」と紹介しました。

また、横琴達安国際イノベーションバレー産業基地のプロジェクト責任者である張容瑜氏は「達安基因 (DAAN GENE: 新型肺炎の PCR 検査など医療診断キットなどを扱う広州市中山大学傘下の企業。2003 年に深セン証券取引所に上場。) は以前から横琴の発展を長期にわたり有望視しており、近年は投資を拡大し、一体化地域で産業基地を構築することで珠海に根を下ろし、横琴への『リポジショニング』を行っています。このプロジェクトは、60 億人民元を投じてバイオ医薬のインキュベーター、アクセラレーター、シェア工場を構築し、達安のサプライチェーンに含まれる 300 社以上のバイオ医薬企業を中心に、多くの中核企業が横琴に定住するように導き、育成することにより、マカオと横琴のローカルバ

---

イオ医薬産業クラスタを牽引し、珠海、マカオ、ポルトガル語圏および EU 諸国間において広範かつ綿密な国際協力を展開していきます。」と、語っています。

中国電建集団市政規劃設計研究院有限公司は、保税区内の科学研究本部、オフィス、ビジネスビルの建設プロジェクトに 10 億人民元を投資する予定です。会社は 4 年前に横琴新区にて設立登記され、これまでに珠海を拠点として大湾区に進出し、横琴新区の「スポンジシティ・プロジェクト」、横琴新区の「香港・マカオ・インテリジェント・シティの排水路プロジェクト」、珠海市富山の「第一浄水場プロジェクト」など、重要な都市インフラプロジェクトを推進してきました。同社の黄建東副総経理は「横琴と珠海の発展に貢献することが出来、同時に同地区の発展が当社に更なる発展の機会をもたらしてくれました。これからも横琴に寄り添い、共に成長していきたいと思えます。」と語っています。

横琴一体化地域は、良質な産業を吸収するだけでなく、都市建設における長期的かつ高レベルな出発点による計画、設計に基づいており、幹線道路、高速道路、中央緑化都市公園、スローウォーキング空間、橋、トンネル、ケーブル施設などの行政インフラ建設プロジェクトにおいて、高水準の現代国際都市を参考にしています。横琴の一体化地域は、一方では新しい開発コンセプトを用いて地域産業の配置を調整・促進することを堅持し、他方では未来志向のコンセプトを用いて独特の魅力を持つ新しい都市センターを創造していきます。

---

【マカオライトレールが珠海へ 横琴線延伸プロジェクトが3月18日、マカオ・珠海両地で同時スタート】



マカオ特別行政区政府は、「大湾区発展計画大綱」における、マカオと中国本土の都市間の高速度鉄道の利便性向上、交通インフラの相互接続の加速の実現のために、2021年2月にマカオライトレール(LRT)・トランジット横琴線延伸プロジェクトの建設を Nam Kwong (Group) Company Limited (南光グループ) に正式に依頼しました。マカオ LRT 横琴延伸線の主要構造は、高架橋、川底トンネル、及び2つの駅で構成されており、全長は約2.2km、そのうちトンネル部分は約900mとなっています。この路線は、マカオ LRT タイパ線の蓮花大橋駅に隣接する HE1 駅 (高架駅) を起点に、蓮花大橋の方向に沿って徐々に下っていき、川底トンネルで十字門水道を渡り横琴に入り、横琴イミグレーションの地下1階にある HE2 駅 (地下駅) が終点となります。

マカオ LRT 横琴延伸線は、珠海とマカオの境界を越えた建設プロジェクトであり、現在、建設図面の作成、臨時交通迂回措置、パイプラインの移設計画、建設期間中の変形モニタリング測量ポイントの配備、仮設施設の建設など、事前準備作業が開始されています。正式工事開始後、現有の蓮花イミグレーションエリアの関連建物施設の取り壊し、および蓮花円形地 (Rotunda Marginal) のパイプラインの移設工事が行われ、主体工事と連動することになります。

---

本プロジェクトの建設は、珠海とマカオの両側からの工事が同時に行われ、マカオ側では、今年の第2四半期に掘削工事など基礎工事がスタート、横琴側では、臨時交通迂回措置やパイプラインの移設、建設期間中の変形モニタリング測量ポイントの配備、HE2 駅／トンネルの地盤補強及び外装工事、駅の出口の掘削および支持構造工事などが近日中に開始される予定です。

4年の工期が見込まれるマカオにとっても主要なインフラプロジェクトであり、また兩岸を結ぶ大規模な公共交通プロジェクトであるマカオ LRT 横琴線延伸プロジェクトは、兩岸の文化的、経済的交流を強化する上で大きな意味を持っています。完成、開通後、乗客は横琴イミグレーションと広珠都市間鉄道延長線の珠海空港メトロライン（フェーズ1）で迅速に乗り換えることができます。これにより、珠海・マカオ地域の公共交通機関の高速接続が実現し、横琴の「広東・マカオ深度合作区」での旅客輸送需要の増加に対応し、通勤効率を向上させ、横琴・マカオが大湾区の「一時間生活圏」へと融合することが可能となります。

【オクトパスカード、来年にも中国本土 270 都市で使用可能に デュアルチップ付きの新カードで対応 データは別管理】



八達通卡有限公司（Octopus Cards Limited）は、香港政府の今年の景気回復対策の一つである電子消費バウチャー配布を支援する以外にも、来年には香港外で中国本土の「一卡通」と連携し、中国本土の都市でオクトパスカード（八達通）を地下鉄や公共交通機関で利用し、香港ドルで決済できるようにすることを計画しています。また、オクトパスのビジネスは2年以内にアジアの4つの国・地域、地域に拡大され、消費者はオクトパス・アプリのQRコードを使って買い物をすることができるようになります。また、オクトパス・ホールディングス・リミテッド（Octopus Holdings Limited）のリー・チュンミン（李俊明）最高経営責任者は、「一卡通との連携は、香港とは別の中国本土用のチップ追加により対応するため、オクトパスカード中の情報を中国本土と共有することはない。」と説明しました。

### 大湾区へのスマートトラベル

リー氏は、中華人民共和国交通運輸部が2016年から全都市の交通機関の電子決済基準を統一し、中国全土の乗客が1枚のカードで各都市の公共交通機関を利用できる「一卡通」システムを開始したことを紹介しました。また、オクトパス香港は一卡通と合意し、来年初め、もしくは早ければ今年末から一卡通にオクト

---

パスカードを追加し、来年から試験的に運用を開始する予定となっています。内部に2つのチップを搭載した新しいオクトパスカードを購入、もしくは古いカードを新しいカードに交換したりすることで、中国本土270都市の地下鉄やバスでオクトパスカードを利用することができ、すべての取引を香港ドルで決済することが可能となります。また、香港市民が大湾区へ旅行する際の様々な交通手段の利用、小売店での少額決済に至るまで、大湾区の関連機関とスマートトラベルサービスを模索しています。

### 無記名カードでも使用可 次のステップは「一卡通」の香港への拡大

オクトパスカードのデータが中国本土に転送されるのではないかと、という点について、リー氏は、中国本土両用のオクトパスカードは、実際には2つの独立した読み取りチップを持つカード、つまり中国本土と香港のチップは別々であると説明しました。また、消費者は、無記名式のオクトパスカードを引き続き中国本土で使用することができます。中国本土の消費者が香港で中国本土のカードを使えるかどうかについて、李氏は、第一段階として、香港の人々が中国本土に行くときにカードを使えるようにすることを掲げていて、来年に試行予定であると述べました。中国本土の人たちの香港での使用は次のステップで、今のところ具体的なタイムテーブルは発表されていません。これらは交通機関や小売店のカードリーダーの更新を伴うため、交換時の費用対効果も関わってくるものとなります。さらに次の段階では、物理的なカードに加えて、モバイルオクトパスの一卡通システムへの対応も検討されます。

### アジア4地域でのQRコードショッピングを2年以内に開始

オクトパス社は、中国本土以外にも、シンガポール、韓国、タイ、マカオといったアジアの4つの国・地域と電子マネーの共同利用について協議しています。これは、消費者がオクトパス・アプリのQRコードを使って、海外の参加小売店で主に少額決済の買い物や、交通機関で利用することができるというものです。リー氏によると、このパートナーシップは2年以上前から検討されてきていたが、新型コロナ肺炎流行のために中断しており、来年には実証テストが行われ、2年以内の実行を目指しているとのこと。

---

また、オクトパス社は、店舗をサポートするオンラインプラットフォームを構築し、店舗が直接消費者に割引などのプロモーションを提供できるようにすることも計画しています。「これまでは、店舗が割引やプロモーションを提供するときに、オクトパス社と交渉し、システムの調整を行っていましたが、オープンプラットフォームの下では、店舗が独自に行うことができるようになります」とリー氏は述べました。

---

## 【参考資料】

- ・ 「横琴一体化地域」により広東省－マカオ間協力関係ますます強固に
- ・ マカオライトレールが珠海へ 横琴線延伸プロジェクトが3月18日、マカオ・珠海両地で同時スタート
- ・ オクトパスカード、来年にも中国本土270都市で使用可能に デュアルチップ付きの新カードで対応 データは別管理（明報）